

2021年度 インフルエンザワクチン接種ポリシー（晴海）

1. 接種の対象

当院ではインフルエンザワクチンの接種を広く勧奨します。個人の免疫を高めるとともに社会全体の免疫を高めることが重要です。家族全員でのワクチン接種を勧奨する立場から、当院では大人や高齢者の接種にも対応していますので、家族皆様そろって接種して下さい。

2. ワクチンの意義と新型コロナウイルスとの同時予防

インフルエンザワクチンは発症予防にも、重症化防止にも有効であることが分かっています。但しワクチンのみでインフルエンザの発症を完全に予防できる訳ではありません。新型コロナウイルスへの感染防止の意味も含めて、引き続き手洗い、マスク、口内補清、体調管理等の感染予防に努めましょう。一般に、小児ではインフルエンザの重症化の方が、新型コロナウイルスの感染よりリスクが高く、また、日本ではインフルエンザ関連の基礎死亡は毎年約1万人に昇りますので、大人の場合もワクチンで重症化リスクを避けることは重要です。

3. 2021年度のインフルエンザの流行予想について

昨シーズンはインフルエンザの流行がほぼありませんでした。その要因としては①新型コロナウイルス対策としてのマスク・手洗い等の感染予防がインフルエンザウイルスに対しても奏効したこと、②昨年は、これまでで最大規模のインフルエンザワクチンの供給と接種がなされたこと、および③新型コロナウイルスの流行が、生物学的にインフルエンザウイルスの流行を抑制したことなどが考えられます。

では、今シーズンのインフルエンザの流行予想はどのように考えたらよいのでしょうか。一般的に前年度の流行が小さかった場合、翌年の流行が大きくなるとみる向きが多いようです。すなわち、前年に流行が無かったため、り患して免疫を持っている人が少ないために流行しやすいとの見方です。今年の夏のRSウイルスの流行などは、これに当たるのかもしれませんが。一方、先述の①や③の点を考慮すると、新型コロナウイルスの流行状況は現状、昨年と同様続いているあるいは、それ以上の流行が発生しているため、インフルエンザは流行しないのでは無いかとの考え方も成り立ちます。しかし、緊急事態宣言下でも、新型コロナウイルスの流行がコントロールできないほど流行していたことを考えると、現在は国民の感染防止意識の低下があり、以前ほどの感染防止対策が徹底されておらず、感染症が流行しやすい状況になっているかもしれません。また、新型コロナウイルスのワクチン接種が進んで、コロナの流行のレベルが低下すると、それに代わってインフルエンザが脅威となる可能性は十分あると思われれます。

当院では、毎年インフルエンザ感染による重症化予防に対して、積極的にワクチンを推奨してきました。基本的にはこのスタンスを堅持し、引き続きワクチン接種を広く推奨して行きたいと考えます。

4. 2021年度のインフルエンザワクチンの供給予想について

昨年は政府主導で、大幅なワクチン製造・供給の増加があったようです。それでも当院では接種が追い付かず、例年のように予約や接種を一時中断する時期が生じました。本年は、政府の発表によると、例年の6-7割程度の製造に留まるとの見込みです。その主な原因は、今シーズン用のワクチン株のタンパクの回収不良とのもので、おそらく当院でも総接種数は昨年よりかなり減少することは必至であると考えています。予約や接種の一時的な中断ではなく、早い時期に接種が終了する可能性が高いと考えています。当院でも可能な限り希望者全員に接種ができるように、ワクチン確保に力を尽くす方針ですが、現状その見通しが立っておりません。

5. かかりつけ登録児/同居家族への特別価格の設定について

当院に小児かかりつけ登録されている方は制度の趣旨を踏まえて、インフルエンザワクチンを原則として当院にて接種して下さい。当院では登録児/同居家族が少しでも当院で接種しやすいように、別途、10月31日までのお申込みにより特別価格を適用しています。本年の特別価格は、登録児は1回3,000円（税込）、同居家族の方は1回3,500円（税込）（参考：一般価格は4,000円税込）にて接種します。ご家族全員で予防して下さい。但し、標準的接種回数を超える接種については、この適用は有りません。小児かかりつけ登録は登録条件（4回以上受診歴のある6歳未満の乳幼児で、保護者より同意書の提出がある方）を満たせば受付けております。通院が困難な遠方の方は、当院での登録はお控え下さい。予定数を大きく上回る場合は、登録を終了させて頂く場合がございますので予めご了承願います。

文責 法人理事長 齋藤 勇